

第17回 杜の宮市 企画書

平成 29 年 1 月 8 日
杜の宮市準備委員会

主催団体

杜の宮市準備委員会 (もりのみやいちじゅんびいいんかい)

代表 森一生 平成 13 年 1 月設立 構成員 15 人

〒491-0042 一宮市松降 1 丁目 3 番 12 号 メール:info@miyaichi.net

URL: <http://www.miyaichi.net>

事務局 (連絡先) 星野博 電話 (携帯) 090-2265-9188 ファックス 0586-72-8885

1. 目的

経済・文化・教育など諸方面で停滞する一宮市を中心とした地域社会に対し、地域のシンボルたる真清田神社の境内やその周辺にて、市民が自ら企画し、自ら運営して文化的なまつりを非営利で手づくりし、一宮の街の興りである三八市のような賑わいの再生を図って暖かい空間をつくること。

また、まつりをつくる過程で能動的な市民自主性を醸成し、雑多なコミュニケーションから多様な市民文化を地域全体へ広げていくこと。

2. 主な活動実績

杜の宮市を平成 13 年 6 月より毎春開催。以降毎年 1~2 万人ほどの来場者を迎えている。

22 年 5 月に開催された 10 回では記念イベントとしてつボイノリオと一宮市長との対談、顔出しアートでカオダシャートを実施。

他に万博イベント (名古屋オアシスパーク) で小型版杜の宮市運営(16 年)、名鉄百貨店一宮店での杜の宮市展(18 年・19 年)など。

20 年 7 月から七夕まつりでクラフト市「結びの宮市」を企画運営。

杜の宮市が事業指導して 20 年に佐賀市商工会議所 TMO 主催の「佐賀楠の杜手づくり市」、新川町商工会「みのじウオーク」など、他地域にも事業協力を数件実施。

28 年 5 月開催の第 16 回からは、一宮市本町商店街が共催となり、真清田神社境内北東端から本町商店街南端まで 1km 全体が会場となった。

事業の内容

1. 名称

杜の宮市（もりのみやいち）

2. 社会的背景と事業の目的

一宮地域は、「織物のまち一宮」としての賑わいも過去となったが、それに代わる市民力は育っていない。多様な市民性に基礎を置きつつ、多様な文化価値の創造を図るような文化機会の存在が重要である。またそれを支える広範な市民力も未成熟である。

全国から高次で多様な文化が常にこの地域で表現され、この地域でも多様な市民文化が活発に展開し、それらが地域全体で共有されつつ次世代へうねりとなって繋がっていくような地域や社会を目指したい。またそうした活動を支える様々な人や企業、団体が多く存在しているようにありたい。

3. 目指している地域・社会と事業との関係（事業の目的）

経済文化教育など諸方面で停滞する愛知県一宮市を中心とした地域社会に対して、地域のシンボルたる真清田神社にて、市民自ら企画し、市民が自ら汗を流して運営する文化的なまつり「杜の宮市」を、一宮の街のにぎわいの興りでもある三八市の再生としても手づくりする。

その目的は、まつりをつくる過程で地域に対して能動的な働きかけていく市民自主性を醸成しつつ、場内・場外で生まれる雑多なコミュニケーションを経由して表現者、参加者、来場者に新しい発見と知恵の共有を連鎖させ、市民文化の多様性を地域へ広げていくことにある。

●**市民性の醸成**：公募による 100 名以上の地域市民ボランティアが、作業過程においても地域へ能動的に働きかけていく自主的市民性を育む。

●**地域の活性化**：一つ一つは小さいが、多様に交錯し巨大なコミュニケーション空間を生み、万人ほどの人々が交流することで一宮市中心部に大きな賑わいを作り、日常の活性化を目指す。

●**地域文化の創造**：すべての面でオリジナリティが模索されており、市民的文化的多様性を地域全般へ伝播していくことを目指す。

●**教育的効果**：市内全校児童にチラシ配布し、体験・交流するプログラムを通じて次世代につながる文化基盤を強めることを目指す。

●**市民団体間連携**：今までも「市民活動大集合」として市民活動団体の広報等の場を提供してきたが、杜の宮市の運営に参加を受ける中で、さらなる連携を模索し、地域市民力向上を図る。

4. 事業の詳細

(1) 実施期間 平成 28 年 10 月 1 日~平成 29 年 9 月 30 日(開催日平成 29 年 5 月 7 日)

(2) 実施場所 真清田神社境内、宮前三八市広場、本町通り商店街（準備は市内各所）

(3) 受益対象者 広域地域市民全般を対象とする

(4) 実施体制 中心スタッフ 15 余名による準備を経て、開催時は公募ボランティア 100 名以上で構成される。今後も安定的に永続させ、地域一般の市民性に寄与していきたい。

(5) 具体的な内容

a) アートクラフトフェア： アートクラフト作家を全国から公募し、審査の上 138 組に神社境内で、自ら作った作品を自らが展示頒布。

b) なまおとライブ： 3～4ヶ所のステージを設置、セミプロ級音楽家や芸人が出演するほか、地域市民に開放する飛び入りステージも運営。

c) オリジナルフード： この場所この時しかないオリジナルな飲食物を公募し、審査の上 40 組ほどにブースを提供、食でもオリジナリティを醸成。

d) 杜の学校： シニア世代による昔遊びの伝授やリアルな体験型遊びを通して、児童を含む全世代に豊かな野外遊びの時空間を提供。

e) 市民活動大集合： 地域の市民活動団体にブースを提供し、体験型の広報活動をしてもらう。市民活動の広報・認知を高めつつ相互理解を深める。

f) 素材やマーケット： 一宮地方の特質であるモノづくり思想を根本に、作品づくりのための素材を提供し、地域文化としての素材再認識を図る。

g) はんじょうブース： 90センチ角の小さなブースながら、全国からアートクラフト作家を公募し、より広範な工芸・芸術表現を凝縮して設置。

5. 今年度の特徴

1. 諸団体と連携し、共同して運営する新しい仕組みづくりをする。
2. より広いセクターからボランティアを募り、自主市民性を育てていく。
3. 近隣商店街まで会場を拡大し、近隣居住者との協働をさらに強化する。
4. フード部門の「おかし横丁」では手土産となるスイーツなどを販売、地域活性化と地域文化醸成を図る。

6. スケジュール

9月～12月	次回事業計画策定開始 計画概略策定、準備
1月～3月	次回準備作業・定例会議開始(毎週)・広報作業
4月～5月	準備・調整・広報作業から開催へ
6月～8月	事後処理・決済処理・報告書等作成

予算

事業収入 2,733,600 円

事業支出 2,733,600 円

報償費 385,000 円 旅費 10,000 円 通信費・手数料 369,600 円、賃借料 1,109,000 円 印刷製本・消耗品費 510,000 円 食糧費 50,000 円 人件費 300,000 円

第16回杜の宮市 報告書

平成29年1月
杜の宮市準備委員会

開催日：平成28（2016）年5月7日（日曜日） 快晴

開催場所：真清田神社境内・宮前三八市広場・一宮市本町商店街

来場者：3万人

ボランティア・スタッフ：約100名

実施内容：ブース合計342、総出展・出店・出演394 ①138人のものづくり（神社境内アート・クラフト展示販売）134、②はんじょうブース（本町アート・クラフト展示販売）52、③素材やマーケット（楼門前素材展示販売）11、④市民活動大集合（本町1広報ブース）10、⑤杜の学校（本町3体験教室）36、⑥フードブース（6ヶ所）99、⑦ステージ・パフォーマンス6ヶ所（出演52組）、

その他：一宮市本町商店街と全面協力となり、全長1キロメートルに350を超えるブースが並び、3千万円規模の資金移動があったと推定される。朝早くから多くの方々が来場された。今年本町商店街にある剣正幼稚園の駐車場に「けんしょうランド」を新設した。ボランティアなど組織運営には課題が残る。とりわけ自ら主体的・能動的に自己責任で活動する市民の醸成はまだまだ本質的成果が薄い。

会計：

支出の部	金額（円）	収入の部	金額（円）
人件費	400,980	事業収入	3,096,080
報償費	379,000	協賛収入	23,633
旅費	6,200	補助収入	377,733
通信費	241,235	収入合計	3,497,446
義捐金	101,855		
賃借料	1,234,588		
保険料	29,920		
消耗品費	519,263		
支払手数料	25,882		
印刷製本費	618,287		
交流会費	71,253		
頒布品費	47,076		
支出合計	3,675,539		
次期繰越金	-173,179	前期繰越金	4,914
合計	3,502,360	合計	3,502,360

以上ご報告申し上げます。